

結・たより, Vol.11

発行:神戸 : ウイメンズ・シンクタンク・ユイ

1998.4.25. - 12p

請求記号:震災-6-z26

* 震災関連記事のみテキスト化しています

震災から3年たって... (2)

1995年1月17日の早朝に起こった、阪神・淡路大震災から3年余がたちました。甦ってくる思い、そして現在も進行形の思い、「ユイ」の会員の皆さんから葉書でよせられた、それぞれの3年目の“今”を前号にひき続き紹介します。

●苦しきことのみ多かれど

風も吹くなり

雲も光なり

の言葉をささげたいと思います。熱い心の風を呼んで、一人ひとりの光を合わせてそれがまた一人ひとりに返って、輝く日の早からんことを。

(大阪市 ?)

●あわただしくすぎてしまった3年。私の場合は震災直後から大きなボランティア団体の世話人代表のまねごとのようなことをさせて頂きましたが、確かな足跡がある訳でもなく、何だか無駄な時間を送ってしまったような、妙な喪失感にさいなまれる今日このごろの私です。まあ悪くはないけどちょっともったいなかったかな... ?!

いちばんよかったことは、「明日はいいことあってほしい」って思うようになった自分に気づいたこと。3年間、いえもしかしたらその前から、日々「明日はつらいことありませんように」って暮らしていたようです。たくさんの方々のつつましやかな泣き笑いの3年間を垣間見させて頂いて、すこしは強くなれたかな？

まちも人も情報もどんどん変わってゆくけれど、変わらずに大事にしたいことが何なのか、社会の中で生きていく自分についてゆつくりと問いかけることをはじめてみたくなっています。

(西宮市 石井布紀子)

●お便り遅くなってすみません。すぐを書くつもりでしたが、今年の1月17日は震災後初めての新しい家での主人の命日を迎えこの3年間、がむしゃらに生きてきた自分にほっとする精神的な時間が持ててくる

と身体の方も少々緩んで来るし、当日のことが昨日のことの様に思い出されて、3年目の今年が一番辛い日になってしまいました

風邪をひいたこともあって、1月は長い暗いトンネルの中にいたような気がします今まで一生懸命前向きに生きて来られたことが自分ではないような気がします。これから自分に何ができるのかわかりませんが自分の生活の中で幾許でも誰かの役に立つことがあればと思っています。最後になりましたが、「結・たより」ありがとうございました。

(神戸市東灘区 江原幸子)

●つぶやき

震災から3年の月日

新聞にのっている写真

ひろいサウ地の一角で

線香とお花

その前で手を合わせている人

プレハブ入居者はまだ1万戸以上

ボランティア、孤独死

入居者の少ないマンション・アパート

その中に長屋風で隔壁のない

マンションが目をついた

私は何をしている

思いはいつも被災者の上にある

何も出来ない、何もできない

いや、ちいーさな援助はつづけてきた

仮設の人達が作った貝のぬいぐるみの鈴

たくさん買ってみんなにあげた

私の机の上に置いている

小さな貝の鈴をみつめながら

私は今日も考える

このままでいいのか

(広島県 小川良子)

●机の前に一枚の賀状が貼ってある。平成7年元旦、臼杵裕子さんから来たものである。彼女はこの震災で犠牲になった。栄光と悲運のドラマチックな人生を駆け抜けていった52歳の早すぎる死であった。

全国で初めて、女性ばかりの銀行の支店長になった彼女は一躍時の人になった。60億円の預金を集め、その経済効果は200億ともいわれた。しかし、体調を崩し、入院してやっとその激務から解放された。

その後、復職した彼女は文化財団の専務理事というラインから外れたポストに就いた。

企業社会の熾烈なポスト争いの中で、女性であるが故の光と影を背負ったような仕事人生を彼女はど

のように受けて止めていたのだろうか。今となっては聞く縁もない。

大阪に住む私は、被災地の難儀を共に語ることができない。友からの最後の賀状を私の中の震災を風化させないためのメッセージとして、いつまでも残しておきたいと思っている。

(大阪市 陸田昭子)

お詫びと訂正

前号で和田里子さんが紹介されていた映画のタイトルを間違えて記載してしまいました。正しくは「SHOAH」で、(「絶滅」を意味するヘブライ語)です。

ドメスティック・バイオレンスのNPO さまざまな分野の人があと一歩、踏み出して

長谷川 京子 (弁護士)

「震災関連記事でないため、内容は省略」

女性センターで読める女のミニコミリストを作りました

尼川 洋子

「震災関連記事でないため、内容は省略」

ストックホルムの街を歩いて 人・暮らし・住まいの印象

中川 俱子

「震災関連記事でないため、内容は省略」

5年の区切り、次なる道は未知の楽しみ

川畑 真理子

「震災関連記事でないため、内容は省略」

[新聞記事あり 1998. 4. 22 朝日(朝) 省略]

ユイとーくさろん

集まって、語り合って、互いの活動を交流しあう ユイ・とーくさろんは私たちの元気の素で、知恵の芽です。前回に引き続き、NPO活動をテーマにユイ会員の山本麗子さんから、この4月に設立された「宝塚NPOセンター」についての話を聞きます。

てーま 「宝塚NPOセンター」の始まり

報告者 山本麗子さん（宝塚NPOセンター事務局次長）

とき 5月24日（日） 午後1：30－4：00

ところ 上御影会館

（神戸市東灘区御影町御影字岸本1152－12 電話（078）811－0106）

かいひ 500円（おいしいケーキとお茶）

申し込みは「アルプラン」中川さんまで

FAX（078）822－4141

(c) 1998ウイメンズ・シンクタンク・ユイ (デジタル化：神戸大学附属図書館)